

一般質問発言通告書

発言順位 2番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和7年11月26日

三島市議会議長 堀江 和雄 様

三島市議会議員 17番 土屋 利絵

質問事項1 ごみ処理施設からの未来づくりに向けて

具体的な内容 国連気候変動会議が、今年11月10日にブラジルで開催されました。気候変動の悪影響が止まらない中、今年も世界で猛暑や激しい気象災害が発生、採択から10年になる温暖化対策の国際ルール「パリ協定」が掲げる産業革命前からの世界の平均気温上昇を1.5度に抑える目標も守られてないことが確実どころか、それ以上になるといいます。

世界全体では、30年間の気象災害、猛暑やハリケーン、干ばつなどによる死者は83万人。被災者は洪水で約27億人。干ばつで約18億人。直接的な経済損失は約700兆円。猛暑の影響でおよそ1分に一人がどこかで命を落としていることになるとのこと。

世界では、暑さに関わる死者は毎年およそ54万7千人。90年代から2.4倍に増えています。

気候変動を悪化させる化石燃料から脱却していくために、日本では温室効果ガスの排出量を、2013年から2030年までに46%の削減をうたっています。

三島市の事務事業から出る温室効果ガスは29,050トンで、そのうち電気の使用と廃プラスチックの焼却が全体の半分を占めています。今回は、その主な発生源となっているごみ処理について、今検討されているごみ処理の広域化を含めながら伺います。

1 温室効果ガスの削減に向けて、一般廃棄物の焼却量削減とごみのリサイクル率の向上に向けての進捗状況について伺う。

2 現在の三島市の一人一日当たりのごみ排出量、リサイクル率の県内比較と課題について伺う。

3 ごみ処理広域化の進捗状況について

- (1) 2032年の新ごみ処理施設建設に向けて、三島市のごみ処理量の目標について
- (2) 他市町の広域化に向けた姿勢について
- (3) 公募する土地の面積について
- (4) 熱海市が挙げた候補地の敷地面積と最終処分場について
- (5) 中継施設について

4 現在の三島市の第3最終処分場埋め立て地の残量と、第4最終処分場建設に今までかかった費用とこれからかかる費用について

5 この枠組みと平行して、三島市単独、または、違う枠組みで考えていく必要性について

6 焼却以外のごみ処理施設の検討について

- (1) トンネルコンポストの可能性と課題について
- (2) 焼却から脱却した場合の地球温暖化への影響について
- (3) 三島市版バイオマスター構想について